

もつひとつの豎坑槽 (粕屋町花ヶ浦)
海軍炭鋳・国鉄炭鋳の遺跡群 (10)

西鉄バス三六番の路線に、粕屋町十原の交差点があります。天神方面へ行くバスは酒殿から宮崎バス停を通り、十原の交差点を左折し、甲仲原交差点へと進みます。

宮崎バス停から十原交差点を直進し、尾石医院方向へと進んでいくと、途中、右手に花ヶ浦公民館、左手に花ヶ浦公園があります。花ヶ浦公園の北側に隣接した敷地内に、糟屋郡内のもうひとつの豎坑槽があります。旧仲原炭坑の豎坑槽です。

豎坑というのは坑道を真下に掘り、バケツを上下に動かすことができるようにしたもので、地表面の施設を豎坑槽と言い、バケツを持ち上げるための巻き上げ機が設置されていました。花ヶ浦の豎坑槽は施設表面のレンガ壁だけが残り、巻き上げ機の面影は全くなくなってしまいましたが、レンガ壁の四面が残されただけでも価値があると言えます。リサイ

クルボックスの右横に小さな案内板が見えます。写真2がその案内板です。昭和四年(一九二九)まで稼働していたと書かれています。

写真3は南西側から上部を見ました。植物が茂り、レンガが所々剥落しているのがわかります。しかし、まだ元の形を十分に残しています。写真4は東側から地平面に近い部分を写しています。アーチ型の出入り口だったところでしょうか、ブロックでふさがれています。出入り口だとすれば、現在の地表面よりも元の地表面は低かったと思われる。

図は写真1と同じ角度での見取図です。四〇×八〇×七〇二(単位センチ)と計測されています。高さは約七メートルです。この図面は九州大学大学院生市原猛志さんが「粕屋町旧仲原炭鋳豎坑について」と題して、平成十五年四月二十六日、九州産業考古学会総会で発表された際の研究発表資料から

引用しました。市原さんは「煉瓦一個の大きさは長手二二七mm、小口一〇八mm、高さ六〇mmでイギリス積みである。煉瓦の質は良いがセメントは粒子が粗く、粘性が弱い。ポルトランドセメントではないと考えられ、これらから豎坑の建造年代は開坑と前後すると推定できる」と書いています。開坑は明治二十一年(一八八八)ですから、かなり古い建造物ということになります。

今回は海軍・国鉄炭鋳とは違って、隣接する鉾区の民営炭鋳の施設を紹介しました。

なお、市原猛志さんの報告については、粕屋町歴史資料館(粕屋フォーラム)のご教示を得ました。

図3. 仲原豎坑の寸法

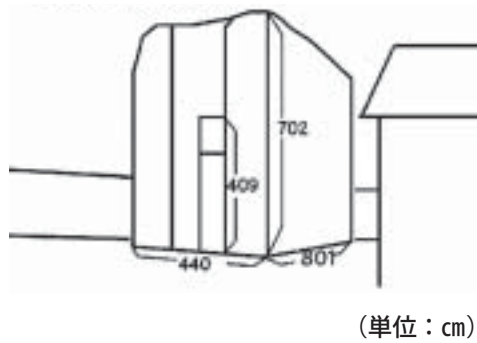


写真2



写真1



写真3



写真4